

生活科の実践

札幌市

生活科

2年

具体物から疑問を生む！工夫して思いを伝える！

手紙のたび

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます

第1章

単元の概要 と 単元構成

この教材のよさは、身近であり、収集することでじっくりと観察や比較ができることです。「教室で研究しよう」という環境を作れば、すぐにでも手紙を手にとることができ、話し合う際も実際の手紙に立ち戻れます。内容(3)(4)(8)(9)にかかわって、また、生活の中で「手紙」のよさを生かしていけるというところにも価値があります。

学習活動の流れ (15 時間)

23.5cm四方、高さ11cmのお菓子の入っていたアルミの缶。中には落ち葉と手紙1枚。重さは500gほど。鉄腕アトムの手紙1枚が貼ってあります。

郵便局の方にゲストティーチャーとして来ていただきます。

ポストの中を見せていただいたり、中で子どもたちの手紙をチェックしていただいたりしました。施設見学やビデオ視聴もしました。

どうやったら手紙は届くのかな(1)

- ・手紙にはどんなものがあるの？
- ・家にある手紙を集めて研究しよう

いろいろな種類や形があるよ。切手や郵便番号も気になるよ。→ハテナ探し(2)

- ・ハテナがいっぱいだよ。わからないよ。

あれ？先生の手紙は届くのかな？(2)

- ・手がかりを探してみよう
- ・住所を書けばいい？大きさ、重さ、形は？
- ・お金はどうすればいいのかな？

郵便局の方に聞いてみよう(1)

相手に秋を伝えるには(2)

- ・どんな形で、どんなことを？必要なものは？(製作)

本当に届くのか、お互いにアドバイスし合おう(1)

- ・大きさ、重さ、切手、住所、内容、糊付け 等

手直しをしよう(1)

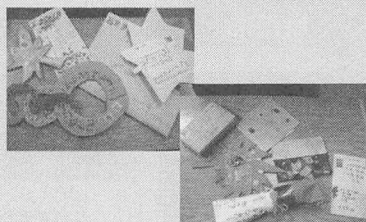
手紙ができたよ(1)

郵便局へ行こう(3)

- ・見学
- ・投函
- ・自分の手紙は届くのか見てもらう

手紙のよさに気付く(1)

『手紙のハテナけんきゅうじょ』で、様々な気付を広げた子どもたちに、具体物を提示します。今まで得た知識から、「切手で届く？届かない？」を考え、考えを交流し、再び手紙を手にとることで、新たな発見をしていきます。

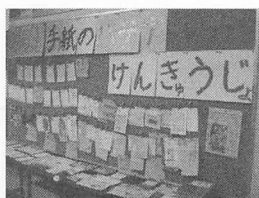


子どもたちの作った写真は

教材・活動の Point!

1. 教室を手紙の研究所にする！

郵便物集めなどの情報収集をし、そこから、切手や大きさなどの発見をとりあげます。発見をもとに、自分なりの仮説を立てます。大きさと切手に関係があるのか、切手のないものは重いものだ…など。でも、仮説はあくまでも独りよがりのものであり、自分だけでは検討できず、はてなは広がるばかりでした。



2. 教師による具体物提示で疑問を焦点化する！

教師が具体物を提示することで、広がったはてなを一度収束させました。より深く考えたり、友達の考えと意見を摺り合わせたりすることで、仮説を壊したり再構築したりしながら見直していく時間となりました。教師が板書で子どもの考えを観点ごとに整理し、位置付けることで、話し合いの焦点が明確になるように工夫しました。



3. 郵便局の方とのかかわりをもつ！自分で投函する！



郵便局の方にインタビューし、自分の仮説とわかったことを重ね合わせ、知識を自分のものとしていきます。手紙を郵便局に直接持って行き、ポストに投函、またはポストに投函できずに窓口へ。料金は大丈夫かな？、無事に受け付けてくれるかな？…ここにもハテナは存在します。受け取った相手の反応を思うなど、「ワクワクドキドキ」でした。